

◆浅学非才な私ではあるが、40年の長きに亘って軍事問題に携わってきた経験上幾つかの確信を得たと自負している。

その例を列記すると、①兵器の発達は生物の進化に似ている、②「勝利は失敗を隠す」そしてそれが「成功(体験)は失敗の元」となる、③太平洋戦争(大東亜戦争)の敗因は幾つかあるものの、物量差以前に日米の軍事技術力とその運用差によってもたらされた、④戦争は兵器という道具を用いた争いであるから相手より優れた兵器を持ちたがるのは当然だが、そこには大きなパラドクスが存在する、などである。紙幅の関係上、④についてのみ述べたい。

かつての大英帝国は質・量共に世界最大の戦艦保有国であったが、さらに画期的な戦艦ドレッドノートを竣工させたことで、(建造中の戦艦を含め)それまでの各国全ての戦艦を旧式化させ、一次的には更なる優位を獲得した。しかしそのことが列強各国をして超ド級戦艦(我が国の「金剛」もその一艦)の建造に邁進させ、かえって英国の優位を相対的に下げてしまった。原爆開発に成功した米国も同様である。第二次大戦後の圧倒的優位さはその4年後のソ連の原爆実験成功により崩れ去り、その後長らくソ連の核攻撃に怯えることになる。

因みに、私達人類を含め地球の生物たちは「質量保存」の化学反応の世界で生きている。他方、核分裂や核融合は「質量欠損」の核反応の世界

であり、それは生物圏内のできごとではない。故に、私は「地球の一生物」として核兵器と原爆は封印すべき存在だと確信している。

(山崎)



皆様は理論と直観のどちらを大切にしていますか？私は断然直感派です。たとえば、ある人物と一緒に平和活動をやりましょうと近づいてきたとします。歴史認識も特に問題はない。思想も似ている。でも何かしら漠然とですが、不安や引っかけりを感じる時があります。自分でも説明がつきにくいのですが、この人物はなんとなく信用できないとか、一緒に活動したらずいいのは。なぜか気が乗らない。そんなときは断ります。このような直観は生まれながら強かったのですが、面接業務などの中でもかなり培われ、さらに異業種の方たちとつき合っていく際に身につけていきました。印象、好き嫌い、肌が合う合わない。もはや勘としか言えない部分で判断することが多々ありました。相手は今、何を考え、何を求めているか。言葉だけで判断しかねるものを、相手の表情やしぐさなどの言語情報以外からくみとる。直観的に相手を判断するクセができました。とはいえ、まんまと騙されて酷い目に合わされたこともありました。そんな地獄の支配から解放された瞬間、季節の変化にも敏感になりました。窓の外の光の具合や空気の匂いで四季の変化を感じとる。それ以前はこうしたことをあまり実感

しなかったもので、自分でも驚きました。動物を飼っている人はわかると思いますが、動物は人間が感じるより少し早く地震に反応します。突然、興奮したりおびえたりしているので何かと思っていると、その数分後に地震がきます。人間も昔は動物的な感覚を持っていたはずではないでしょうか。しかし文明が発達してその力が急速に衰えていったのだと思います。人工的なもので囲まれ、環境の厳しさやリスクと向き合わなくてすむようになったことが大きい。世の中が便利になり成熟社会になるほどその傾向は強くなります。今の日本社会など、その典型ではないでしょうか。そんな中、世の中で真実を語り平和活動に力を注いでいる人を見ると、知性や理性が優れていると同時に、この直観力を働かせている人が多いように感じます。

(仲條拓)

★発行所 石原莞爾平和思想研究会

〒179-0076 東京都練馬区土支田3-46-7

山崎行政書士事務所内

TEL(FAX兼用) 03-3925-2353(山崎)

郵便振替 00130-9-410942

発行人 仲條拓躬

編集人 「永久平和」編集委員会

定価 200円(送料別)

会費(年間) 篤志会員 10000円以上

一般会員5000円、誌友会員4000円

第134号 平成27年(2015年)10月25日発行